

会 議 録

1 会議名

令和3年度第3回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和3年8月24日（火）午後6時30分から午後7時47分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、
佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、荷屋和夫、平野コトミ、水嶋豊秋
（欠席者2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：水嶋委員に依頼

議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・資料No.1「谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議事項について」に基づき説明

本日は、各委員から話し合いたいテーマ、内容についてお話いただきたい。資料にあるテーマ以外には、特になしということでもかまわないし、追加意見でもかまわない。

【坪田会長】

話し合いたいテーマについて、1人ずつ発言を求める。

【安達委員】

地域活性化に向けた取組で、年代を問わず参加できるイベントを開催できたら良いと思う。子どもも一緒に参加できるようなものが良い。委員の皆さんも小・中学校で地域に根差した体験活動など行事を実施しているので参加していると思うが、様々な年齢の方と交流することで地域の魅力を色々な角度から発見し、行事に参加することで将来住み続けたい地域と思ってもらえたら、人口減少にも繋がるのではないか。

【齊藤委員】

地域活動支援事業について、提案者と事務局でやり取りをしていると思うが、その流れが理解しにくい。提案された金額にしても、補助希望額と事業費をみると概ね千円から2万円の差である。実際は10万、20万円違うということがあるのではないか。これは、事務局で調整しているのか教えていただきたい。

【千田主任】

地域活動支援事業の提案額について、提案団体から出された金額をこちらで調整することはしていない。

【齊藤委員】

提案された内容について、行政からこの提案は妥当ではないと判断された事例はあるのか。

【坪田会長】

提案内容が、好ましくないので提案としてあげられないということはある。実際に募集要項に当てはまらない場合は、事務局で指摘されると思う。

【齊藤委員】

その流れは我々に報告されているのか。

【坪田会長】

一覧の中の担当課所見の部分が、行政からのそれに対しての懸案事項である。

【齊藤委員】

では、まったく実施できないというわけではないのか。問題点を指摘されて返ってくるということか。

【千田主任】

地域活動支援事業で、例えば、市の施設を修繕したりすることは対象外になっているので、そこに該当するものは、「課題あり」となって検討をお願いすることになる。

【佐藤寿美子委員】

地域活動支援事業で採択された事業の結果を知りたい。結果がわかれば来年の参考になるのではないか。これは良かった、これはいらぬのではないかという目安になるのではないか。冬くらいにはどの事業もある程度終わり、結果が出ていると思う。その段階で結果を示していただければ、皆さんも審議に入りやすいのではないか。

【坪田会長】

以前、実際に事業を実施されているかを点検したことがあった。購入した備品をきちんと管理されているか調べたこともあった。

【田村委員】

地域の活性化について、健康ウォークの提案があったが、谷浜地区では何年か前まで実施していた覚えがある。普段生活圏が違う所の人と交流し、通常では知り得ない人と話ができることがあったので、この行事の復活もあり得るのかと思う。それを谷浜だけではなく桑取地区と連携してというやり方もあるのではないか。

2点目は、くわどり湯ったり村についてだが、料金の割に料理が見劣りすると聞く。実際はどうかわからないが、そういった噂が出ている。それが全てとは言わないが、そんな噂が出ること自体が考える余地があるのではないかと思う。

それに比べると、近くに、うみてらす名立があるが、あそこは海が近いので海産物が優れている。やはり、桑取地区にしかないような、何か個性を持ったものを考慮する必要があると感じる。夏になると「平左衛門カフェ」で夕顔を塩クジラ汁にして出している。あれは、我々の世代には懐かしいが、最近の若者はそういったものを好まない。

【荷屋委員】

令和2年度の意見については、どれも関連があるので外せないと思う。進め方が大事だと思う。何か行事をやるのにそれをどのようにやるのかというほうに重きを置きたい。今、谷浜地域づくり協議会で谷浜・桑取区のガイドマップを作成している。私もこの地域から転出された人に50軒以上送っているが、こちらに戻ってくる可能性の

ない人ばかりなので期待はしていないが、こういう取組をしているとPRしている。

何をやるにしても賛同してくれる人がいないと駄目だと思う。城ヶ峰砦の狼煙上げについては、谷浜地域づくり協議会でずっと実施してきているが、参加される人は決まっている。今後、続けていくということになれば、若い人から参加してもらうことが先決である。PRして来てもらわないことにはどうにもならない。

今出されている課題について、進めることができないか。前進しないと元に戻ってしまう。会議するだけ無駄になると思う。1つの問題が出たらそれに集中していくのが良いと思う。

【平野委員】

これから一人暮らしの人も多くなると思うので、年を取っても安心して暮らせるような地域になれば良いと思う。すこやかサロンなどはあるが出席する人は決まっている。家から出かけられない人もいるから、そういう人たちも安心して暮らせるような地域になるように、地域協議会が関われば良いと思う。

【水嶋委員】

地域の活性化やくわどり湯ったり村をどうしようとかという話があるが、私自身の考えとしては、この地域はそういう活性化するような時期はもう通り過ぎたと思っている。何かイベントをやっても皆さんが言われるように、出る人は決まっているし、無理に出てくれと言っても長続きするものではない。今、平野委員が言われたように、この地域は老人が8割ぐらいになっているのではないか。その中において、どのように安らかな人生を送るかを考えたほうが、本当の活性化になるのではないかと思う。

【金森副会長】

平野委員から、地域の活性化として我々が安心して年を重ねていけるような地域づくりに地域協議会が関わるのは大切だというお話をいただいた。私もまさにそうだと思う。健康ウォークや盆踊りには元気な人が出てくる。その陰に、なかなか思うように体を動かさない人がいる。そういった人たちに向けての取組が少ないのではないかと感じている。元気な人だけを対象にしたイベントではなく、たまには、家の中に閉じこもりがちな人たちをどのようにして元気づけるか、そういうものも考えていきたいと思っている。

それともう1点、テーマから外れるが、地域活動支援事業について、受付一覧を見たときに担当課の所見欄がある。「課題なし」という文字が目立つような気がする。担当課が提案内容を見て、「課題なし」と判断したということになると、「事業を進めても良い

のだろう。なんの問題もないのだな」と取ってしまいがちであるが、いろいろな市の補助制度がある。そういうものに対して、どのように関わったほうがいいのか。例えば、私達が除雪機械を買いたい。地域の高齢化が非常に進んで、なかなか家の前の除雪もままならないといった状態のときに、地域活動支援事業に提案してもいいのか、或いは、市の小型除雪機購入費補助金を活用するべきか迷う。いろいろな事業を行うに際して、まちづくりセンターに相談して、確認を取った上で事業を提案する仕組みにしたほうが良いのではないかと思う。事業の進め方については、情報交換をしっかりと行い、進めていく必要があると思う。地域活動支援事業と地域協議会の役割をわかりやすい形で整理しておくべきだと思っている。

【佐藤峰生委員】

地域活動支援事業と自主的審議事項は、本来別々に取り組むものだが、谷浜・桑取地区の場合は、「地域活動支援事業をより効果的に地域活性化に結びつける」というテーマを挙げさせていただきたい。

ポイントを5つにまとめてみた。

1点目、単年度、或いは狭い範囲の活動を継続的、広範囲の活動にしていく。

2点目、活動を実施することが目的になっているものを、活動を別の目的の手段にしていく。

3点目、活動することによって、地域が変わる、或いは住民の皆さんの意識が変わるということに結び付けていく。

4点目、この地域に住んでいる人たちが、ふるさとを誇りに思えるようにしていく。具体的な取組の1つとしては、ふるさとを出た人たちに「谷浜・桑取地区は良い所だ」と言えるようにする。

5点目、交流人口を増やすことにつなげる。地域には、気づいているものもあるし、気づかずに埋もれているものもあるが、宝がたくさんあると思う。その宝に磨きをかける。

この5つのポイントで、具体的な話をさせていただく。何かを行うには目的と手段が伴う。目的を何にするかによって、手段は変わってくる。今年の提案内容にあてはめてみたいと思う。

西山寺で盆踊りをする事業が提案された。アンプとマイクを購入するものだったが、私は反対をした。継続的にこの盆踊りが実施されるのかという思いがあったからである。

アンプとマイクを購入して終わりでないか。先ほど言った手段と目的ということである。西山寺の町内会で盆踊りをするということが目的になるとそこで終わってしまう。次年度以降実施するかは、西山寺町内会の判断で決まってしまう。では、目的と手段を変え、西山寺で盆踊りをするのが目的ではなくて、西山寺で盆踊りをするを手段にするとうなるか。目的は何にするか。西山寺には、転出者がお盆に帰ってくる。先ほど私が狭い範囲ではなく、広い範囲でという話をした。旧高住小学校区には7町内ある。範囲を旧高住小学校の卒業生の皆さんとし、7つの町内で盆踊りをしようという企画にしたらどうなるか。西山寺町内だけに負担をかけるのではなくて、2つの町内が組になって、1年ごとに持ち回りし、転出者にも案内を出す。開催場所は旧高住小学校の跡地でやったらどうか。そこで、今年、校歌をCDにするという提案事業があったので、校歌を皆で歌ってから盆踊りを行う。今年実施し、来年も行えば、遠くに住んでいる人たちが皆に声をかけ合って、再来年には、それを楽しみにして来る人もいるかもしれない。そこから、くわどり湯ったり村で同窓会をしようという話につながっていくかもしれない。1つの取組が、目的で終わるのではなくて、それを次の新しい目的の手段になっていく。

もう1つの例としては、持続可能な地域活動を目指している。そのために、目的と手段を明確にする。目先の目的をその先の目的の手段にして展開をしていく。今まで取り組んだ活動の中で、こういうことを行おうと思うが、一緒に行えるテーマはないかということで広げていく。それによって新しい目的に繋がってくる。

先ほど、荷屋委員から城ヶ峰の整備で、決まった人たちしか集まらないという話があったが、それに対してどのような新しい取組をしていくか。この活動は20年以上やっているが、地域活動支援事業の支援を受けるようになったのは直近である。それによって活動は加速度的に進んだと思う。その活動が今ずっと続いて、今後も続いていくようにするにはどうしたら良いか。地域活動を継続して取り組めるような新しい地域活動はないのかと考えている。新しい芽として、例えば花桃の里の活動がある。花桃の里で1年目の春に花が咲いた。来年になればもう少し綺麗に咲くと思う。花桃の里の活動はその後花見がある。先ほどお年寄りの外出という話もあった。お年寄りの皆さんも集まって花見をしようということになる。そして桃の咲く時期、桜の咲く時期、ヒマワリの咲く時期に谷浜・桑取区の花めぐりをする企画が展開されていくかもしれない。そうすると通年花見をすることができる。花がなかったら、花畑を作ろうということになる。そ

の時に、お年寄りからも種まきに参加してもらおう。子どもたちからも参加してもらおうということにつながる。

もう1つの柱として、桑取谷は神楽の里と言われている。子どもたちも子ども神楽を習い始めた。伝統の継承が進んでいる。神楽の里をテーマにして、それを手段にした時に何がその先にあるかという、谷浜地域づくり協議会が作成したガイドマップの中に、谷浜・桑取区のお祭りが載っていた。神楽は各町内で実施することが通年で計画されているので、「お祭りめぐりをする」ということに繋がる。今、計画的に取り組むためのケースということで3つの流れの話をした。

先ほどの花めぐりやお祭りめぐりは、単発の流れではなくて途中で合流することもできる。そのようにして、活動が一部の人たちだけの負担にならないように、地域全体でというような形に展開できる。谷浜地域づくり協議会の皆さんの活動が継続的に進んでいて、ガイドマップで取り上げられた地域のお宝に今磨きがかけられている。具体的には、交流人口を増やすという先ほどのキーワードがあったが、コロナが収まった時にこの谷浜・桑取地区にたくさんの人達から来ていただきたい。そのときに、ここにもこんな良いところがある、ここにもあるというふうに迷わずに巡っていただけるように、案内看板を設置していただいている。これからまた別のところにもたくさん設置がされると思う。そのように、手段と目的を最初に明確にしながら最終的にはどこに結びつけるか、先ほど5つのキーポイントという話をしたが、そのように活動が展開されていけば、子どもからお年寄りまで、或いは、一年中、或いはどの地域でも、人々が汗をかいて汗をかいた結果も味わえる。目的をどこに置くかによって、汗をかくことが苦にならない。そういうものを若い世代の人たちに引き継いでいけたらと思う。

【坪田会長】

これから、谷浜・桑取区地域協議会として、どのような自主的審議事項を進めるか、今後、テーマをある程度絞って、どういう方向で進めていったら良いのか意見をお聞きしたい。

【水嶋委員】

この地域協議会が、この地域においてどういう役割をしているのか、私自身もよく理解していない。おそらく地域の方でも、委員の町内は多少話を聞くとと思うが、委員のいない町内の人には全く関心もないのではないかと。地域活動支援事業を利用していない人は、地域協議会が何をしているのかが見えていないと思う。テーマならテーマを絞って、ど

ういう地域と関わりを持って、どのように審議して活動していけば地域のためになるかを煮詰めたほうが、役割もはっきりするし、審議の方向性が見えてくると思う。

【坪田会長】

地域協議会たよりや、広報上越など、いろいろな形ではお知らせをしているが、なかなか目につかない部分も多々あるかと思う。

地域活動支援事業の採択審査のための地域協議会でもあるような気もするが、必ずしもそうではない。あくまでも、皆さんの中で議論をして、自分の地域をどのような形で、良い方向に進めるかを話し合っているのです、決して1つ1つが無駄にはなっていないし、それぞれいろいろな意見があると思う。もちろんマイナス意見もプラス意見もあると思う。それを総合して、この谷浜・桑取区をより良いものにするにはどうするか、それぞれ意見はあってはかりだが、テーマとして、何かないと次回も開催できないような状況だと思う。地域協議会とはという部分もあるし、活性化という部分もある。

内容が幅広くて、テーマを絞りづらいと思う。今回限りではなく会議が続くので、1つずつ解消していても良いのではないかな。

【千田主任】

自主的審議にはいつまでに決めるといった期限はない。皆さんからいろいろな意見が出たので、事務局で1回整理させていただいて、それからまたどの話題について話し合っていくか協議してはどうか。

【中村センター長】

皆さんの発言の中で地域活動支援事業の話があった。佐藤寿美子委員から、当該年度の事業の状況を理解したほうが良いのではないかという話があった。令和2年度にも3月20日に開催した地域活動支援事業の募集説明会で事業報告をさせていただいた。地域活動支援事業は年度で動いているので、皆さんの活動が終わる時に、こういう状況でしたという結果報告を行っている。来年度も事業が続くとすれば4月1日から募集が始まる。今年度の課題として、提案していただいた中で無駄があったのではないかと佐藤峰生委員からもご指摘をいただいた。事務局とすると採択審査の時に話したとおり、地域の活動団体が提案されてきた内容について、地域協議会で判断していただく中で、もう少しこうすれば良いのではないかという議論の場は、採択審査の場面では遅すぎるという認識がある。前にも話したが、この機器が欲しいという提案があった時に他の提案で似たような機器があるが、どれか1台にして2つの事業を本当に賄えるのかとい

うケースや、逆にどちらかを包含するようなものだと大きくなりすぎて管理が大変なケースもある。そうなった時に、後で責任を負えないという点で、あくまでも令和3年度の地域活動支援事業の採択では、提案いただいたものについて審査をお願いした。

3月に募集説明会で新年度に向けて活動する団体の皆さんと意見交換したり、課題を考えたりする場を設けたつもりだが、その場面では遅かったのかもしれない。採択してから2、3か月経つが、今の状況とか、来年度こういうことを考えているので、地域としてはどうかというプレゼンテーションが提案の前であっても良いのかと思う。

地域協議会は、実施部隊にはなれないので、実施部隊である提案団体になり得るような方と、もっとこういうことを考えている、こういう課題を解決したいと思っていると意見を挙げてもらって、地域活動支援事業に結びつけてもらえたら良いと思う。

【坪田会長】

我々の中で「地域協議会とは」という疑問が大きなものになっている。委員である私たちも、実際理解していない部分もあるため、そこから理解するのも必要かと思う。それを含めた中で、何か課題というか1つのテーマを考えていただき、次回の地域協議会を開催したい。これを含めて質疑を求める。

【田村委員】

我々には、決定権はないのか。市長から諮問がきた時に、それに対して我々は、そのことで審議するだけなのか。「反対です」と言っても良いのか。

【坪田会長】

意見具申のような部分はある。強制力もない。

【中村センター長】

諮問については、こういう方針で進めたいが、地域としてはどうかを地域協議会に伺い、地域のご意見を聞くものである。地域の意見として、「地域として支障がある」と承る場合もある。

【田村委員】

この谷浜・桑取区には町名会長が集まる会議がある。そこと地域協議会との関係はどうなるのか。例えば、市の事業だと、まず町内会長宛てに説明がある。谷浜・桑取区にこういったものを作りたいとか、こういう予定をしているとすると、まず該当町内の中で、可否を話し合うのではないのか。

【坪田会長】

町内としては独自の地域振興協議会があるが、こういう議論の場とは違う。谷浜地域振興協議会、桑取地域振興協議会、そして2つを合わせた谷浜・桑取地域振興協議会がある。それは、あくまでも幹線道路や、土砂崩れや災害など、地域に不具合があった時のもので、地域協議会の諮問事項とは若干ニュアンスが違うと思う。

【田村委員】

それがよくわからない。市が何かを行おうとすると、必ず町内会長に対して説明があり、地域協議会に対しては、必ずその後追いの説明みたいな感じがする。

【坪田会長】

町内会長には、市からの諮問はないと思う。センター長が言われたように、ここで審議をすることになると思う。

【田村委員】

承知した。

【齊藤委員】

谷浜・桑取地区の人口は町内会長協議会で把握しているのか。

【坪田会長】

世帯数までは把握している。事務局でも世帯数、人口は調べられると思うので、必要であれば次回の会議で教えてほしい。

【齊藤委員】

年齢別に、20代から50代の人が谷浜・桑取区にどのくらいいるのか知りたい。

【中村センター長】

統計データであり提出することは可能である。参考までにお伝えさせていただくが、去年の9月に、国勢調査の結果をもとに谷浜・桑取区に関するデータとして、1回資料を配布しているので、そちらも参考にいただければと思う。

【水嶋委員】

今後は話し合うようなテーマを絞って、例えば、今回は、福祉について話し合うのであれば、民生委員をされている方に来ていただいて、意見交換をしたほうが良いのではないかと。この中で話しても、皆さん現状がわかっているわけではないし、そういう専門の方を呼んで、この地域にこういう課題があるのだということを皆で問題意識を共有したほうが、話の進め方としては良いのではないかとと思う。

【坪田会長】

現段階で出た意見はあくまでも皆さんの提案事項であるため、また皆さんで協議し、こうしたら良いという方向性であれば、そういうふうにしていかなければいけないと思う。

【水嶋委員】

皆さんが関わっているものもあるだろうが、関わっていないことについては、なかなか理解していないと思う。

【坪田会長】

皆さんの意見を取りまとめ、集約して方向づけをし、何が1番ベターなのかを話し合っていけば、よりよい地域協議会の場になるかと思っている。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

次回の協議会については、今のところ諮問等の案件はないため、次回開催日については、会長と日程調整し決まり次第お知らせする。

【坪田会長】

他に何かないか。

【田村委員】

7月29日の新聞に県の最終処分場計画について、上越の関係者に説明会があったという記事が掲載されていた。その説明された内容を次回で説明してほしい。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。